

【評者】

徳田安春

地域医療機能推進機構研修
センター長



Dr. 宮城× Dr. 藤田 ジェネラリストのための 呼吸器診療勘どころ

宮城征四郎，藤田次郎 著

●B5・頁192 2014年

定価：本体3,800円＋税

[ISBN978-4-260-01979-8]医学書院刊

最近、勉強会が熱い！中でもケースカンファレンス方式が人気である。ケースカンファレンス方式の勉強会は、必然的に参加型となり、臨床現場でのリアルタイム診療に合わせた臨場感で、ケース謎解きのスリル感もあって学習効果も大きい。従来このようなケースカンファレンスは、それぞれの病院内で行われてきたが、最近では病院間や地域、全国規模でカンファレンスが行われるようになった。

地域の病院間のケースカンファレンスで人気のあるものには、京都GIMなどがある。しかしながら、このような病院間カンファレンスの起源であり、現在も定期開催されているのは、沖縄県の呼吸器疾患ケースカンファレンスであろう。「うふいーち会(うふいーちは沖縄の方言で深呼吸を意味する)」という別名でも有名なこのカンファレンスは、群星プロジェクトセンター長の宮城征四郎先生が立ち上げられたもので、歴史あるカンファレンスである。全国への波及効果もあり、「全国うふいーち会」という年1回のカンファレンスも毎年の日本呼吸器学会に合わせて開催されている。

このカンファレンスにリアルタイムで参加しているような臨場感を感じながら楽しく学習できるように工夫されているのが本書だ。藤田次郎先生は、実際のカンファレンスでの発言を全て録音し、そのテープ全文

の書き出しをされたという。なるほど、カンファレンスの臨場感が味わえる理由がわかる。本書のメインディッシュはなんといっても宮城先生の「勘どころ」のご発言である。この英知は、「勘」とは言っても理由なき直感ではなく、英語ではintuitionというよりinsightとも呼ぶべきものであり、長年にわたる豊富な臨床経験からあふれ出すパールの輝きを呈している貴重なアドバイスである。

若手医師が提示する病歴情報に対して、宮城先生からは詳細な問診情報が要求され、その根拠が示される。バイタルサインの提示に対して呼吸数はもちろんのこと、それぞれのバイタルサイン・データの解釈の切れ味は鋭い。最終診断に至るまでの過程を振り返りながらinsightあふれるコメントをもらうことができる。藤田先生の「文献考察」では、疾患の歴史的背景からエビデンスベースとなったランドマーク研究の論文について紹介され、知識の地固めができる。“ジェネラリストのための”というタイトル通り、ジェネラリストが知っておくべき呼吸器の基本必須事項が満載であり、高齢化でますます重要となっている呼吸器疾患へのアプローチを楽しく習得できる読みごたえのあるものとなっている。